

# 平成29年度年度末 学校評価アンケート結果

福島県立只見高等学校



12月に生徒、保護者、教員を対象とした今年度の学校評価アンケートを実施しました。その結果をお知らせいたします。  
(アンケート回収率：生徒100%、保護者70.6%、教員100%)

## 1 アンケート項目および評価方法

以下の4つの大項目の中に各5～6の小項目を設け、4段階(A～D)※で評価しました。

※  
A:「はい」  
B:どちらかといえば「はい」  
C:どちらかといえば「いいえ」  
D:「いいえ」

- I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)
- II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)
- III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)
- IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)



## 2 アンケート結果

※達成度=評価Aを90%,Bを70%,Cを30%,Dを10%として評価者数で平均した値

### (1) 各評価者からみた平均達成度(昨年度)

| 生徒           | 保護者          | 教員           |
|--------------|--------------|--------------|
| 70.2%(68.5%) | 71.5%(71.6%) | 63.9%(70.9%) |

### (2) 各評価者からみた高い評価(各3項目)

| 評価者 | 順位 | 項目   | 達成度  | 順位 |    |    |
|-----|----|--|------|----|----|----|
|     |    |  |      | 生  | 保  | 教  |
| 生徒  | 1  | あなたの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。                     | 82.1 | 1  | 2  | 14 |
|     | 2  | あなたは部活動等に積極的に取り組んでいますか。(～いましたか。)             | 79.3 | 2  | 1  | 14 |
|     | 3  | あなたの言葉遣いや礼儀はきちんとしていますか。                      | 76.6 | 3  | 8  | 21 |
| 保護者 | 1  | あなたのお子さんは部活動等に積極的に取り組んでいますか。(～いましたか。)        | 83.5 | 2  | 1  | 14 |
|     | 2  | あなたのお子さんの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。                | 79.5 | 1  | 2  | 14 |
|     | 3  | あなたのお子さんは本校に学んで、人間として成長していると思いますか。           | 78.5 | 13 | 3  | 5  |
| 教員  | 1  | 生徒・保護者から提出された書類(申請)や徴収金の受付処理及び管理を適正に行っていますか。 | 82.9 | 5  | 6  | 1  |
|     | 2  | わかる授業をするための工夫をしていますか。                        | 77.1 | 6  | 9  | 2  |
|     | 3  | 評価は能力・態度・意欲等の総合的評価になっていますか。                  | 75.9 | 10 | 10 | 3  |

### (3) 各評価者からみた低い評価(各3項目)

| 評価者 | 順位 | 項目                                      | 達成度  | 順位 |    |    |
|-----|----|---|------|----|----|----|
|     |    |   |      | 生  | 保  | 教  |
| 生徒  | 22 | あなたは学力の向上に向けて、計画的に家庭学習を行っていますか。         | 57.9 | 22 | 22 | 22 |
|     | 21 | あなたは本校に入学して良かったと思いますか。                  | 60.2 | 21 | 4  | 9  |
|     | 20 | あなたにとって課題(宿題)の量や質は適切ですか                 | 61.5 | 20 | 12 | 12 |
| 保護者 | 22 | あなたのお子さんは、学力向上に向けて計画的に家庭学習を行っていますか。     | 57.8 | 22 | 22 | 22 |
|     | 21 | あなたのお子さんは進路実現へ向けて、補習や個別指導に積極的に参加していますか。 | 64.5 | 19 | 21 | 19 |
|     | 20 | 学校からの進路に関する情報提供は適切だと思いますか。              | 65.7 | 7  | 20 | 14 |
| 教員  | 22 | 生徒は計画的な家庭学習を行っていると思いますか。                | 30.0 | 22 | 22 | 22 |
|     | 21 | 生徒の言葉遣いや礼儀はきちんとしていると思いますか。              | 41.8 | 3  | 8  | 21 |
|     | 20 | 生徒の進路目標は明確になっていると思いますか。                 | 42.9 | 9  | 11 | 20 |

## 3 アンケート結果の分析

### I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)

年3回の授業力向上週間を年間計画に位置づけ、教員間の互見授業を通じた授業改善に力を入れました。年度後半に、1学年を中心にタブレットやclassiを活用した授業展開や家庭学習課題も取り入れ、生徒の理解を助け、主体性を引き出す方法の研究ができたことも、生徒、保護者からの高い評価につながったものと思われます。しかし、家庭学習の習慣化は本年度も三者共通の大きな課題となりました。特に、保護者、教員の生徒の家庭学習時間に対する危機意識は昨年比でも非常に高くなっており、その対策が急務です。3つの時間(勉強開始、就寝、起床)を固定することで生活リズムを整え、英語の予習、数学の復習を軸に家庭学習を進められるような体制を整える必要があります。何より、生徒自身の自発的な学びにつながる方策を、学校、家庭それぞれの立場、関わりの中で伝えていくことが大切と考えます。また、課題(宿題)の量、質に対して、生徒、教員の達成度が低くなっています。高校教育の質を保証しながら、学力層に応じた知的好奇心を引き出す内容を工夫していきます。

### II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)

生徒の達成度はすべての項目で昨年より向上し、進路意識の高まりを感じました。特に、学校からの進路情報の提供に対する評価が大きく向上した点は、進路指導部の各種取組や総合的な学習の時間、LHR、クラス掲示等での活動が機能しているものと思われます。しかし、同じ項目でも保護者の立場ではまだまだ不十分という結果も出ており、保護者に進路情報を確実かつ適切に発信できる体制づくりと手段を検討する必要があります。今後も生徒自身が自分の適性や進路選択の幅に気づく場面を多く設定し、生徒と保護者、学校と保護者のコミュニケーションを図りながら、生徒の進路目標実現に向けた取組を充実させていきます。また、現在本校では、進路の第一希望を決めただけで満足してしまう生徒が多く、目標を達成するための具体的な行動やその次のレベルに挑戦する姿勢が低いことが大きな課題となっています。生徒同士が互いに刺激し合い、切磋琢磨してより高みを目指す学び合いの集団となるよう、ガイダンスと個別指導が持つ機能を最大限に生かした進路指導を行っています。

### III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)

ここ数年本校の大きな課題であった教育相談体制の充実の項目において、生徒、保護者の評価が昨年比で大きく改善しました。SCを講師とした校内研修会、担任・教科担当者による教育相談週間、日常的な声かけ指導、定期的なアンケート実施による生徒のストレス耐性の把握、職員間の情報共有など、当たり前のことを職員一人一人が高い意識で継続できたことが大きな要因であると考えます。毎日の昼休みの巡回指導、校内いじめ防止対策委員会もしっかり機能しており、生徒が安心して学べる教育環境の整備を今後も進めていきたいと思えます。その反面、保護者と教員の両方で、生徒の服装頭髪の乱れや言葉遣い、礼儀作法の改善を指摘する声が多くなりました。改善のためには周囲の大人が同じ基準を持ち、気づいた時に声に出して諭すことで、生徒自身にその時の言動の振り返りをさせなければなりません。生徒の変化に無関心にならないよう、学校はもちろん、家庭と地域全体で継続的に生徒の心身のサポートをしていく必要があります。また、部活動を年度途中で転部するケースが少なからず見られ、関連する質問項目の達成度が低い状況が見られました。共通の目標達成のために苦楽を共にした体験を通し、互いの価値観を認め合うことで自分自身や集団の成長につなげられるような活動を心がけていきます。

### IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

保護者に関しては、どの質問項目においても85%以上が概ね満足しているとの高評価でした。一方、生徒に関しては学校生活に何らかの不安要素を感じている生徒が3割程度いることが分かり、その対応を急がなければなりません。特に、山村教育留学生は環境の変化や集団生活の中でさまざまな課題に直面する場面も多く、心身のバランスを崩しやすい傾向があるようです。そういった状況に配慮しながらの指導を進めていくのはもちろんですが、他者と折り合いをつけながら自力解決できるたくましさや、地域や周囲の人から与えられた環境を当たり前だと思わずに、感謝の気持ちをもって生活することの大切さも同時に伝えていかなければならないと考えます。